

令和7年度 事業報告 生活介護

今年度は、7月からグループホームが開所され10名の方が入居された。職員の勤務形態が兼務の形となり、職員が少ないなかでも工夫を行いながら、活動等に参加していただいた。職員数の関係で、4月から7月の間に外出支援を計画し実施、7月以降は月に1回各担当職員がイベント（そしあるカフェや焼き芋など）を計画し、利用者の方が楽しく参加できるよう実施した。

令和7年度重点項目に対する反省

①職員間で情報共有を行い、チームとして利用者様の困り感を減少できるよう支援を行う。

今年度もほのぼのというソフトに各利用者様に対しての支援状況や日々の様子、怪我などの健康状態を入力し、全職員で情報共有を図った。月1度の職員会議では、事前に利用者様の支援状況を撮影し、参加職員で意見交換を行い、次の支援に繋げた。

②研修や自己啓発の取り組みを通して、専門的知識を習得する

11月の職員会議では、理事長より「そしある」らしい「障害特性に応じた支援」を再構築するためにというテーマの資料を準備いただき、職員で確認を行った。また、その後は自閉スペクトラム症とはというテーマで研修を行った。

③事故防止の為にリスクマネジメント体制を整え、定期的に委員会を開催し、事例等の検討内容を従事者に周知徹底する

9月、10月と同じ利用者様が様々な要因で送迎中、公用車から降車される事があった。幸いにも、交通事故などには繋がらなかったが今後同じようなことを起こさない為にも、翌日からご家族に送迎を依頼した。その他にも、事故やヒヤリハットがあったが、その都度、対応策を考え、未然に事故を防げるよう全職員に周知した。

その他

今年度より、協力医療機関がタナカ在宅クリニックに変更となった。通院が難しい利用者の方が多くいらっしゃる中で発熱や怪我があった際は、往診やビデオ通話などで診察をしていただき、体調不良が続くことはなく、ご家族も安心されていた。